

【森のお話】
…コラム…

東北が北限！絶滅危惧種

— ユビソヤナギ、*Salix hukaoana* —

森林総合研究所東北支所 地域研究監 新山 馨
森林総合研究所 生態遺伝研究室 菊地 賢

ユビソヤナギは、一九七二年に群馬県水上町（現みなかみ町）を流れる利根川上流域の支流・湯檜曾川の岸辺で深尾重光氏に発見され、ユビソヤナギ、*Salix hukaoana*と命名されました。日本のような科学研究が進んだ国で、高等植物の新種が見つかることは大変珍しいことです。ヤナギ科植物は雌雄異株で、雄花と雌花は別々の個体に咲きます。しかも花の時期と葉が展開する時期がずれているので、花と葉を同時に見ることが難しい植物です。また葉や花は近縁種の間でよく似ているため、分類・同定が難しい植物といわれてきました。ユビソヤナギは、一緒に生えているオノエヤナギと似ているので発見が遅れたとも言われています

（写真1）。しかし、最近の研究では、オノエヤナギではなく、北海道に分布するエゾヤナギに近縁であることが判つてきました。他のヤナギより早く早春に開花すること、雄花の花糸が合着して一本に見えること（写真2）、樹皮をむくと内樹皮が黄色を帯びていること（写真3）、葉の基部に托葉が見られることなどがユビソヤナギの特徴です。一方、ここ二十年ほどの間にユビソヤナギが東北各地で発見されています。例え



写真1 ユビソヤナギの葉



写真2 ユビソヤナギの雄花

ば一九八三年に宮城県の鳴瀬川流域、一九八五年に同県江合川流域（竹原・内藤一九八六）、さらに一九九三年に岩手県の北上川水系和賀川流域（竹原一九九五）、福島県の只見川流域（鈴木・菊地二〇〇六）、秋田県の雄物川水系玉川流域、山形県では最上川水系立谷沢川流域および銅山川流域、赤川水系大鳥川流域、荒川水系荒川流域



写真3 黄色い内樹皮



写真4 ユビソヤナギの生息地（只見川流域）

（写真撮影はすべて菊地賢）

などです。ユビソヤナギは川の下流部ではなく、上流部の山間地や少し広い盆地に流れ出た河川のやや礫質の河原に分布しているようです（写真4）。このような川の上流部はシロヤナギやオノエヤナギが優占する生育環境で、これら二種と混じって生えていることが多いようです。みなさんの住む町の近くの川にユビソヤナギはありませんか？ぜひ一度、川辺のヤナギも観察してみてください。新しい北限が見つかるかも知れません。